

● 2014年（平成26年）1～3月

1 社会・治安情勢

(1) 武器密輸（1月23日付当地ガッド紙）

ア ヨルダン軍幹部によれば、1月22日未明、ヨルダン国境警備隊がシリアからヨルダンへの大量の小型及び中型口径武器、弾薬及び麻薬の密輸を銃撃戦の末に阻止し、容疑者5名を逮捕した。同軍幹部はヨルダンの治安・安寧を脅かす者に対しては厳罰をもって処すると述べたが、容疑者の国籍等については言及しなかった。

イ ヨルダン政府は公式にはヨルダン・シリア間の武器・麻薬等の密輸の存在について公表していないが、現在、国家治安裁判所が多くのシリア案件（シリアからのテロ分子の不法入国、武器・麻薬密輸）について取り扱っているのが実態である。またヨルダン・シリア国境地帯の住民らの多くが密輸業に従事していると見られている。

(2) シリアからの不法侵入者の拘束

ア 2月15日夜、ヨルダン国境警備隊は、シリアとの国境におけるシリア避難民の通常ルートとは異なるルートから不法にヨルダンに侵入しようとしたシリア人10名の身柄を拘束した。その際、ヨルダン国境警備隊と不法侵入者との間で衝突が発生し、シリア人7名が負傷、同警備隊によりラムサ公立病院に緊急搬送された（2月15日付ヨルダン軍ウェブサイト）。

イ 2月17日未明、ヨルダン・シリア国境からシリア人4名がヨルダンに不法に侵入しようとした際、ヨルダン国境警備隊との間で衝突が発生し、シリア人1名が死亡、同3名が負傷した。負傷者については国境警備隊により近くの病院に搬送された後、治安当局に引き渡された（2月17日付ヨルダン軍ウェブサイト）。

ウ 3月19日夜、ヨルダン国境警備隊は、2台の車によりシリアからヨルダンへ密輸されようとした武器及び中東で使用されている麻薬の一種であるカプタゴン錠剤1万錠を差し押さえた（3月21日付ヨルダン・タイムズ紙）。

(3) MERSコロナウイルス（3月9日付ヨルダン・タイムズ紙）

3月8日、ヨルダン保健省は、MERSコロナウイルスにより1名が死亡したことを受けて国内の警戒レベルを引き上げた。

ヨルダンにおける同ウイルスによる死亡例は、2012年の2件に続き、3件目である。今回は、白血病を患っていた男性がキング・フセイン癌センターにおいて死亡したものである。現在、国内の病院において同ウイルスに感染している患者はいない。

保健省がこの患者に関わった関係者の検査を行ったところ、全員陰性であっ

た。

(4) 抗議行動

3月14日、パレスチナ系ヨルダン人の判事が10日にアレンビー橋国境施設においてイスラエル兵により殺害されたことに抗議し、イスラエルとの国交断絶、駐ヨルダン・イスラエル大使の追放などを求めて民衆活動家、ムスリム同胞団など約1,000名がカロウティ・モスク前から在ヨルダン・イスラエル大使館へ抗議行動を行おうとしたが、治安当局に阻止された。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

レストランにおける発砲事案

ア 1月6日午後10時頃、当大使館から徒歩3分のところにあるレストラン Whispers（アンマン市内の5サークルと6サークルの間の ZHRAN 通り沿い）において発砲事案が発生した。

レストランの従業員によると、同時刻に乗用車に乗った男1名がレストランに向け、ショットガンのようなもので4発発砲し、1発は出入り口のドアに、2発は同ドア上部の看板に、1発はレストラン横の警備小屋にそれぞれ命中し、店内に客はいたが負傷者はなし。

イ 1月8日夜、アンマン市内のレストラン（2サークル近くのレストラン Fakhr El Din）において、男1名が同店付近を歩行中、突然同店に向かって4、5発発砲したが、負傷者はなし。同店の警備員に目撃された犯人は、現場を車で立ち去った。

ウ 後日、警察は本件容疑者5名を逮捕し、今回使用されたショットガン及び麻薬を押収した。容疑者は、6日に発砲事案が発生したレストラン及び本件レストランの同一駐車場経営者に対し、会社経営への参入を申し入れたが、断られたため、同社が関係するすべてのレストランにおいて発砲すると脅迫し、犯行に及んでいた。

3 テロ・爆弾事件発生状況

なし。

4 誘拐・脅迫事件発生情報

なし。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

ヨルダンの渡航情報（危険情報）の一部引き上げ（2月19日付）

シリア国内においてシリア政府軍と反体制派武装勢力との間で激しい戦闘が継続しており、ヨルダン国内に多数のシリア避難民が流入しています。また、ヨルダンとの国境付近でも戦闘が発生しており、砲弾等がヨルダン側に着弾しヨルダン人が負傷する事案も発生している他、シリアからヨルダンに不法に侵入しようとした際、ヨルダン国境警備隊との間で銃撃戦が発生し、死傷者が出ています。ヨルダン治安当局はシリア国境地帯における警戒を高いレベルに引き上げて対応していますが、シリア国境地帯における治安が更に悪化する可能性は排除できません。

つきましては、同地域の危険情報を「十分注意してください。」から「渡航の是非を検討してください。」に引き上げます。同地域に渡航・滞在を予定されている方は、渡航の是非を含め自らの安全につき真剣に検討し、渡航・滞在する場合は最新の治安情報を入手しつつ周囲に警戒を払う等、十分な安全対策を講じられるようお願いいたします。

上記以外の地域の渡航情報（危険情報）は、「十分注意してください。（継続）」です。

（了）